



お嬢様とお外で三毛ちゃん？

あおがん！

小説 天草白
挿絵 ピラノ

立ち読み版

第一章

憧れの先輩とドキドキ初体験

006

第二章

遊園地デートでらぶらぶエッチしましょ？

065

第三章

空の上でもたくさん注いでほしいんです

116

第四章

熱いの全部受け止めてあげますね

166

第五章

決戦の後は思いつきり激しく！

206

登場人物紹介

Characters



ほうじょういん ゆきの 北条院 雪乃

私立聖ワルキューレ学園三年生。弓道部のエースで、大企業『ノーザンブレイン社』の社長令嬢。悠人とは幼馴染みで姉と弟のような関係。金持ちの娘のため世間ずれしている面もあるが、好奇心旺盛。



かわはら ゆうと 河原 悠人

私立聖ワルキューレ学園一年生。素直で真面目な性格で弓道部に所属。昔から雪乃に憧れている。

想像をはるかに超える処女肉の生硬さに、悠人は驚きを隠せなかった。

悠人は丹念に力を込め、贅肉の一つ一つをほぐしていくイメージで腰を前後にスライドさせる。

「あつ……ああつ、ゆ、悠くんっ！ もっとくださいっ……もとおっ……！」

雪乃は甘ったるい悲鳴を上げて、悠人の背中に両腕を回しているものの、決して痛がってはいないようだった。

「は、あつ、ゆう、くうん、すごい……ああ、私の中が、悠くんではいっぱいになって……はあ……ああつ！」

悠人が勢いをつけて最奥まで打ち込むと、次第に雪乃の内部は堅さがなくなり、ヌルヌルとした粘質な感触とともにスムーズな抽送ちゆうそうを行えるようになっていた。

摩擦感を減らす潤滑油となっているのは、間断なく溢れてくる蜜だろうか、あるいは破瓜の血だろうか。

どちらにせよ、悠人が腰を打ちつけるたびに結合部からはぴちゃ、ぴちゃ、といやらしい湿音が鳴り、膣の縁から飛沫が飛び散って地面に滴り落ちていく。

悠人は半ば無我夢中で、雪乃の胸元に手をかけた。

制服の赤いリボンをほどき、ブレザーの合わせ目を左右に押し開く。

不意を突かれたのか、雪乃の抵抗は弱く、「きゃあつ」と恥ずかしげな悲鳴をか細く上

げただけだった。

「み、見たい、雪乃さんの身体、もっと……見せて……く、うつ」

はあ、はあ、と荒い息をぶつけながら、悠人はブラウスのボタンを外して雪乃の胸元を露出させた。

フリルのついた可愛らしいブラジャーに包まれた、たわわな二つのバストがぷるん、と揺れている。

「やあつ、恥ずかし……ああつ！」

悠人がブラジャーのカップを下にずらして丸い乳房をあらわにすると、雪乃は甲高い悲鳴を上げた。

「雪乃さんのおっぱい、綺麗……！」

悠人は感動の面持ちで、憧れの美少女のナマの乳房を見下ろしていた。

形よく盛り上がった二つの丘は仰向けの姿勢を取っているにもかかわらず、瑞々しい弾力でお椀の形を維持し、ほとんど潰れていない。

周囲の肌よりもいっそう白い乳肌は、上空の月明かりに照らされて青白い輝きを放っていた。

頂点で尖る薄桃色の乳首は可愛らしく痙攣していて、雪乃の息遣いに合わせ、わずかに上下動を繰り返す。悠人が指先で軽くはじくと、

「んっ」

雪乃が背中を大きくしならせ、鼻にかかったような喘ぎを漏らした。

悠人は乳首を交互に指でつまみ、コロコロと指の腹で転がしながらなおも刺激する。

「あっ、ああ、んっ。だめ、悠くん、そんなに触っちゃ……あんっ」

雪乃が裸の胸を揺らし、身体を左右によじらせるたびに、狭苦しい胎内がよりいっそう収縮し、悠人の分身を締め上げた。

「くうっ、どんどんキツくなってくるっ。気持ち、いいっ……！」

うねうねと蠢く膣肉によりいっそう強い力で絞られる。

「私もっ……お外で、いやらしいことしているのに……ああ、身体が熱いっ……！」

雪乃もまた白い下腹部を揺らしながら欲情の声を上げた。

清純な美貌が淫らな朱色に染まる。

妖しい金の輝きを宿した瞳で、悠人をさらなる抽送にいざなう。

童貞を失ったばかりの少年はもはや限界を迎え、甲高い喘ぎをこぼした。

「ううっ、ゆ、雪乃さ……締めつけ、すぎっ……僕、イキそうだよお」

「ど、どうぞ、悠くんの……はあっ、はあっ……私の中にいっばい注いでくださいっ」

雪乃は潤んだ瞳で悠人を見上げ、射精をリクエストした。

かすかに涙の跡が残る瞳を細め、可憐な笑顔でこちらを一心に見つめている雪乃の顔が、

悠人の胸を甘くときめかせる。

もはやここが野外だということさえ頭から離れた。

はっ、はっ、と荒い呼吸を吐き出しながら、悠人は力いっぱい腰をスイングさせた。抽送のたびに間断なく迫り上がってくる、マグマを思わせる欲望衝動。

それは、とても童貞の悠人にコントロールできるような熱量ではなかった。

「うくっ、絡みついてきたっ……イク、よ、雪乃さんっ！」

悠人は最後に二、三度小刻みなピストンを繰り返すと、最後に渾身の打ち込みを雪乃の膣洞の一番深くまで叩き込んだ。

複雑にうねる柔褰が龟头に吸いつき、竿をまさぐり、根元を締め上げる。

異なる刺激を同時に受けて、ペニス全体に甘美な稲妻が走り抜けるのを感じながら、悠人は雪乃の腰を両手で力強くつかんだ。

腰の奥から込み上げてくる熱い衝動を一気に解放し、雪乃の清らかな膣に浴びせかけようと身体を前傾させる。

「ううっ、イックうううううっ！」

自慰とは比べものにならないほどの愉悦が悠人の腰を灼いた。

どくん、と力強く脈動した肉棒は内部から溢れる迸りによってさらに膨らみを増し、限界まで張った肉傘の頂点からおびただしい量の精液を放出する。

どくっ！ どくどくっ！ どびゅっ……どくっ……びゆるうっ……びゆくっ……！
「はあああつ、熱いつ！ 悠くんの、熱い……よおっ！ あ、ああああ、んっ……！」

雪乃はやるせない悲鳴をこぼしながら、長い髪の毛を振り乱した。
すらりとした下肢が跳ね上がり、悠人の腰に鞭のように巻きついた。

そのままグッと引き寄せるとさらに結合が深まり、その反動でうねった膣肉にペニスの
中腹を思いつき絞られた悠人は、

「く、うううううっ……まだ、出る……うっ！」

肉棒の内部を新たに走り抜けた痺れるような愉悦を感じながら、押し殺した叫び声とともに射精を続けた。

どびゅっ……どくっ……びゅっ、びゅうっ……びゆるうううっ……！

自分でも信じられないほどの射精の量、そして勢い。

「すご、いつ……こんなっ……!! 悠くんの、こんなにっ……！」

雪乃は眉を軽く寄せて瞳を閉じ、放出の勢いに狼狽の表情すら浮かべていた。

それでもグラマラスな肢体を揺らし、半開きの唇から甘い喘ぎを漏らす。

むっちりとした腰をくねらせて、悠人の熱情のすべてを胎内深くで受け止める。

どくっ、どくっ、どくっ！ どくっ、どくどくっ、どくんっっ！

若々しいペニスの脈動はとどまるところを知らない。



悠人が放出したスペルマは信じられないほど大量に迸り続け、雪乃の内部を白濁一色に染め上げた。

これほどの量を一度に射精したのは生まれて初めての経験だ。

「……き、気持ちよかったですか、悠くん」

ようやく射精を終えると、雪乃が薄く目を開けて悠人にたずねた。

幸せそうな微笑みを見ていると、胸がギュッと締めつけられるような疼きを覚え、悠人は無言で雪乃を抱きしめる。

公園に吹き抜ける夜風が、火照った身体を心地よく冷やしてくれた。

雪乃は何かに納得したようにうなずくと、恥ずかしそうに、しかしどこか嬉しそうに頬を赤らめながらつぶやいた。

「えっ？ えっ？ ええっ？」

「したいならしたい、と言っていただければ……私だって、悠くんが喜んでくれるならどんなことだってしてあげますよ？」

「雪乃さん、何か勘違いしてない？」

「悠くんって、意外にいやらしいんですね。ふふ」

雪乃はつぶらな黒瞳を爛々と輝かせた。上空から降り注ぐ陽光を反射して、角度によっては瞳が黄金色に見える。

「うふふふふふっ……！」

「え、ちよつと……？」

「ふふふふふふふふふふ……！」

年上の幼馴染みは妖しい微笑混じりに顔を寄せてきた。

上気した顔は今にも湯気を発しそうなほど火照り、赤い光沢を放っている。

艶やかな桃色の唇が向かう先は、大きく左右に開いた悠人の両脚——その付け根だ。

「ち、ちよつと、雪乃さんっ。人が……人が見てるよっ」

悠人は近くにいるかもしれないSPに聞こえないような声をひそめながら、うわずった声

音でささやいた。

「大丈夫ですよ、悠くんっ。こうして姿勢を低くしていれば、周りからは見えないはずですよから——さあ、遠慮なさらずに……ふふふふふ」

うっとりとした口調でつぶやき、雪乃がさらに顔を寄せてくる。

「いや遠慮なんて一ミリもしてな……ううっ」

熱い吐息がジーンズ越しに股間をくすぐってきて、悠人の腰骨にぞくりとした甘痒い感覚が走り抜けた。雪乃の唇がジーンズの股間部にそっと触れたのだ。

「く、ううっ」

もちろん厚い生地に阻まれているので、ペニスにまで柔らかな唇の感触は届かない。

それでも類まれな美少女が自分の股間にキスをしているという刺激的なシチュエーションだけで、悠人の背筋はぞくりと燃え上がる。

「ううっ、ゆ、雪乃さんっ」

唇の次は、指だ。

いったん顔を離すと、雪乃はしなやかな指先を悠人の太ももに這わせ、上に向かってゆつくりとなぞりながら、やがて股間にまで到達させた。

ジッパーの周辺を指の腹や爪の先を使ってさすり、時には強く圧迫する。

「そんなに刺激したらっ……く、ううううっ……！」

海綿体が力強く充血し、硬いジーンズの生地を内側から持ち上げ始めた。

「ねえ悠くんっ、今度は直に触ってもいいですかっ？ いいですよねっ！」

雪乃の目が異様な輝きを宿し、上目遣いに悠人を見上げていた。

「ど、どうぞ……」

その迫力に圧倒され、悠人は半ば無意識にうなずいてしまう。

言質^{げんち}を取ったとばかりに雪乃は悠人のジーンズへ素早く手を伸ばし、ジッパ^{ジッパ}ーに指先を引っかけた。

「あぁっ……」

ジッ^{ジッ}と静かな音を立ててジッパ^{ジッパ}ーが引き下ろされていくのを、悠人はどこか他人事のように見下ろしていた。

この間の初体験も野外だったが、あのときは周囲に誰もいなかった。

しかし今は違う。いくらティーカップによって隠れているとはいえ、周りは親子連れや若いカップルで溢れているのだ。

(そんな場所で、僕はアソコを丸出しに……)

ごくろ、と喉が鳴った。

本来なら決して許されない、野外での性器露出――。

それは悠人の心に大きな解放感と、鳥肌が立つような背徳感とを同時に感じさせる。

すぐ側では何も知らない客たちが大勢楽しんでいるというのに、悠人はいやらしくも青空の下でペニスをあらわにしているのだ。

禁忌を犯しているという事実が、なぜか胸を心地よく疼かせた。

（いけないことをしているはずなのに……どうしてこんなにドキドキするんだろう？ 雪乃さんが公園でオナニーしていたときも、こんな気持ちだったのかな）

ジーンズの隙間から飛び出した勃起した器官が空気に触れ、身体にぞくつとした興奮が押し寄せた。

赤黒い亀頭はすでにフルサイズに近い膨らみを見せ、先端からは透明なカウパー液を滴らせていて、周囲にツンとした刺激臭を放っている。

竿のほうも太い血管が浮き出しており、どくん、どくん、とペニスの芯にまで響くほど強く脈を打っていた。

「まあ、こんなに大きいんですね。私、明るいところで見たの初めてです……」

雪乃はかすかに息を呑んだ。

すでに八割がた勃起状態になっている悠人の肉棒をまじまじと眺める。

この間の初体験は終始薄暗い公園の中での行為だったため、雪乃がこうして悠人の分身器官をはっきりと目にするのは、確かに初めてのはずだ。

「太くて、ビクビク動いていて。すごく……たくましい、です。ふふふ、それにとっても

いやらしい形をしているんですねっ……」

雪乃は切れ長の瞳を潤ませ、感動と好奇心の混じった視線を送った。あまりにも熱烈な視線は、悠人に若干の居心地の悪さを感じさせる。

「あ、あんまり見られると、その、恥ずかしいんだけど……」

「ごめんなさい。いやらしいですけど、なんだか可愛い形にも思えますね。まあ、ぴくつて動いて……うふふふ、お味はどうでしょうか……？」

雪乃は嬉しそうに笑い、透明な粘液で湿る赤黒い先端部へ唇を寄せた。

くちゅっ、と湿った音がして、柔らかな感触が熱く火照った亀頭部に触れる。

「っ……！　く、うっ……！」

清らかな美少女が綺麗なピンク色をした口唇で、自分の性器にキスをしている——ペニスの先端に電流が走ったかと錯覚するほど刺激的な情景に、悠人は思わず声を上げかけ、慌てて唇を噛み締めて喘ぎを押し殺した。

あまりおかしな声を上げては周りの客やSPたちに気づかれかねない。

「んっ……。男の子って少し苦い味がします。でも……やっぱり、美味し……！　これが悠くんの味なんですなっ」

雪乃は感心したような表情で肉根の先端部にチロリと舌を這わせた。

ちゅっ……ちゅ、むっ……れろっ……。



処女を失ったばかりの雪乃に口唇愛撫の技巧などあるはずはない。

おそらくは女としての、本能的な動きなのだろう。

ぎこちない動きながらも、亀頭の曲面に沿って舌を巻きつけてギュッと絞る。

ちゅっ……ちゅ、るっ……じゅぽっ……ちゅぽっ、れるおっ……。

柔らかな舌でペニスの先端部をヌルヌルに濡らし、こわごわと唇を上下に開くと、かぷっ、と亀頭全体を咥え込んだ。

「ふ、うっ……おっきい……あんっ！」

（雪乃さんが、僕のおちんちんを……そ、それもこんな場所……！　人が大勢いる場所で、口にっ……く、くわえて……うわあぁっ!!）

憧れの美少女から施された生まれて初めてのフェラチオに、悠人は胸がすぐような感動を覚えた。

その感動に、野外でいやらしい行為を行っているというタブー感が加わり、純真な少年の心を激しくかき回した。

自然と息が荒くなる。狭いティーカップの中で何度も太ももを痙攣させて喘ぐ。

「んぐっ……んぐっ」

可憐な美少女が喉を鳴らしながら少しずつ太棒を口の中に吞み込んでいく様子は、これが野外で行われている出来事だとは信じられないほどエロチックだった。

可愛らしいピンク色の唇は丸く開かれ、太いペニスをしっかりと咥え込んでいる。

唇の端を濡らす唾液が、日光の照り返しを受けてキラキラと輝いていた。

ここが野外なのだという当たり前の事実を、悠人はあらためて認識した。

びくっ……びくんっ……！！

高まる興奮に、肉根が脈を打ちながらますます膨張する。

「くう、むっ……！！ まだ、大きくなっ……んんっ！！ お、男の子って、こんなに……むぐうっ……！！」

口の中でワンサイズ膨らんだ肉棒に驚いたのか、雪乃は悲鳴混じりに瞳を潤ませた。

じゅるっ……ちゅ、ぱっ……ちゅぱ、ちゅぱっ、ちゅるうっ……。

うねうねと舌が跳ね上がってペニスの裏筋を力強く叩く。

「あ、そこ、気持ち……いいっ……」

悠人は声をうわずらせながら無意識に腰を上下に揺すりたて、反動でティーカップがすすかに震えた。

敏感な亀頭の粘膜に柔らかな口内粘膜が吸いついてくる。

ただ口に咥えてもらっているだけで心地よい波がペニス全体に行き渡る。

頬をすぼめ、眉間をしかめながら肉棒を付け根まで呑み込んだ雪乃は、ひくつく鼻腔から熱い息を吐き出した。

「んっ……はあ」

鋭敏な肛門を柔らかな指の腹で撫でられ、雪乃はかすかに眉をひそめた。

「え、ここを……触るの、雪乃さん？」

さすがに悠人も戸惑いを隠せない様子で聞き返してきた。

しかし野外でのセックスに夢中の雪乃は、白熱化した意識の中で喘ぎ、恋人にもう一度同じ指示をする。

「そう、です……ああっ……わ、私の……お、お、お尻……の……穴を」

胎内に咥え込んだ悠人の肉茎が、まるで別の生き物のようにのたくり、力強くうねって敏感な膣粘膜をこすりたてた。

「あ、花火よ、綺麗」

近くで女の声がした。

赤や青、緑、黄色——と、色とりどりの閃光が美しい大輪の花となって夜空に咲いた。

花火の光に照らされながら、雪乃と悠人は一心に交わりあう。

ぬちゃっ、ぬちゃっ、ねちゅっ……！

粘膜同士が激しく接触する濁音が、淫靡に響いた。

「一緒に来れてよかったよ」

今度は男の声。雪乃たちのように夏祭りデートの真っ最中なのだろう。

雪乃は今さらながらに、衆人環視の状況で悠人とセックスをしているのだという事実を思い起こした。

（ああ、でも止まらないっ……!）

とろっ……結合部の縁からかき出された愛蜜が、周囲に甘酸っぱい匂いを振りまく。

「あれ？ 見て、あそこでカップルがイチャついてない？」

「え、どれどれ」

不審げな男女の声が響いた。

（気づかれたのっ……!?!）

ぎくり、としながらも、身体の内部で高まった性悦の電流を止めるすべはなかった。

立ちバックの姿勢で悠人から一際強く突かれた瞬間、雪乃の頭の中で真っ白な輝きが爆発した。

「あ、だめっ！ 周りにいつ……き、気づかれっ……はあああああ、んんんっ！」

抑えきれずに派手な嬌声を漏らしてしまい、雪乃は思わず顔をこわばらせた。

もしも周囲の人間が雪乃たちのしていることに気づけば、一斉に注目されるだろう。

ぷりんとした尻をあらわに、恋人のモノを受け入れている雪乃の姿を、大勢の人間にあますところなく見られてしまう――。

危険な想像をしたとたんに、膣の中がきゅん、と甘く疼いた。

「くうっ、また締まっ……!!」

悠人が背後から腰を揺すり、すっかり水気が多くなった膣内をたくましいモノで攪拌してきた。

「本当にベタベタしてるね、あの中年夫婦」

先ほどの声がふたたび聞こえ、雪乃は快樂でかすむ瞳を声がしたほうへ向けた。大学生くらいのカップルが前方を歩く中年くらいの男女を指差している。

どうやら彼らが言っていたのは雪乃たちではなく、あの中年夫婦のことらしい。
(私の勘違いでしたか……)

ドキドキと激しい鼓動を鳴らしていた心臓が、安堵感とともに収まっていく。

しかし、落着き始めた心とは裏腹に、雪乃の下腹の奥で渦巻く快感はどんどんと上昇曲線を描き続けた。

ぐちゅっ!

悠人からもう一突き、今度は膣の入り口付近の粘膜をくびれた亀頭でえぐられ、充血したクレヴァースに愉悅の電流が走る。

「はあ、んっ……あっ……お、お尻も、弄ってえ……! おねが、い……」

膣孔に加えられた甘い衝撃に喘ぎながら、雪乃は嬌声混じりに懇願した。

「あんっ」

悠人の指がおそろおそろといった様子で、肛門の付近に触れるのを感じ取り、雪乃は浴衣の裾をひるがえしながら背中を弓なりに仰け反らせた。

本来なら排泄にしか使わないその器官を他人に触れられたのは、もちろん雪乃にとって初めての経験だ。

「雪乃さんのお尻の穴……ピンク色で、すごく綺麗」

「やっ、あんまり見ないでください……」

雪乃は、先ほどまで興奮によつて封じられていた羞恥心を急激に煽られ、美尻をくねらせた。

「あっ、今ヒクヒクしたよ。恥ずかしがってるのかな？」

「だ、だって……」

「こんな周りに人がいるところでお尻の穴を弄られて、気持ちよくなってるの？ 雪乃さんって本当にいやらしいよね」

悠人もまた雪乃の興奮が伝播したのか、テンションが上がっているようだ。

「ずぶりっ！」

悠人の指先が柔らかいアナルを丸く押し広げながら、内部へ侵入してきた。

「はあああああ……やあ……んっ……！」

生まれて初めて味わう異物感に、雪乃は豊かな尻をくねらせた。

おそらくはまだ第一関節が入ったくらいだろうが、それだけで肛門が熱く火照り、直腸の内部にまで熱波が燃え広がっていく。

ぐちっ、と悠人の指先が雪乃の腸内でゆっくりと動き始めた。

最初は腸壁をノックするような感じでゆったりと。やがて指腹で直腸の粘膜をさするようになり、少しずつ動きを速めていく。

「私のおし、り……悠くんの指で……ううっ……ひ、広げられてるっ……!」

「雪乃さん、大丈夫なの？　こんな感じでいいっ?」

不安とも興奮ともつかない声音でたずねてくる悠人に、雪乃は熱い吐息混じりに何度もうなずいてみせた。

浅く抽送を繰り返しながら、悠人の指が肛門内に分け入ってきた。

ずぶうううっ……!」

第一関節から第二関節、と埋め込みの度合いが深くなるにつれ、直腸全体を突き抜ける異物感が強まる。

同時に排泄時にも似た背筋がぞくりとするような快楽も増してくる。

「そ、そうです……今度は、中でねじって……ああっ」

深く差し込まれた人差し指が雪乃の肛門内で右へ、左へ回転し、鋭敏な腸粘膜を引っかきながら甘く疼かせた。

悠人は雪乃の指示通りの指遣いで、アナルの入り口から奥に向かって刺激を与えてくれる。

年下の少年に性技を仕込んでいる、という状況は、まるで自分が恋人を従える女王様になってもなったような背徳的な気分だ。

（い、いやだわ、私ったら何を考えているのかしら――）

雪乃は頬を熱く火照らせながら、子宮を燃え上がらせるような興奮を抑えきれない。

それは以前自宅に悠人を招いた際、彼のペニスを足だけでイカせたときに感じた征服的な愉悅にも似ていた。

「ふ、ぐうつ……！」

肛門内にさらなる圧力を感じ、雪乃はかすれた悲鳴を漏らした。

悠人は指を左右にねじりながら、なおも直腸の奥へと進んでくる。

最初は軽い疼痛を感じたのだが、徐々に肛内壁が指の異物感に慣れてきたらしく、直腸全体がぜん動しつつ悠人の指をキツく食い締めていく。

「あつ、雪乃さんの中、うねって……はあつ」

直腸に連動して膣内までもがひとりで蠢きだしたらしく、悠人がピストンを続けながら気持ちよさそうに喘いだ。

「……んっ！」

熱い吐息が雪乃の耳朶に吹きかかり、恋人の興奮を感じ取った雪乃は自身も欲情を昂ぶらせながら、豊かな尻肉を左右に振りたくった。

上空で、ふたたび花火が輝いた。

雪乃が背後を振り向くと、色とりどりのまぶしい光に照らされ、悠人の姿が目映る。そして自分自身の、剥き出しになった白い双臀も――。

（私、こんなにいやらしい格好で悠くと……）

一瞬だけ照らし出された淫靡な情景に、初心^{うぶ}な少女の心は熱くはじけた。その一瞬の後、花火の光が消えると、ふたたび辺りは暗がりにも包まれる。

「うう、うわっ……ふ、くああっ」

悠人が気持ちよさそうにうめき声を断続的に漏らした。

その声が先ほどの情景と重なりあい、雪乃の興奮をさらに増大させた。

自分の胎内で大好きな男の子が快感を覚えてくれている、という事実は、雪乃の女としての誇りを快くすぐてくれる。

（悠くんの、このまま搾り取ってしまいたいです……！）

妖しく身体をうねらせながら、意識的に括約筋に力を込め、膣孔を収縮させて悠人のペニスを強く締める。

処女を捧げて以来、何度か悠人と肌を重ねているうちに自然と身につけたテクニクだ

った。

悠人が悦ぶ顔が見たくて、雪乃はこのテクニックを一心に磨いてきた。もちろんフェラチオや手コキなども同様だ。

自分が快楽を得る以上に、相手に快楽を与えたい。喜んでほしい――。

恋する乙女らしい奉仕の思いを胸に、雪乃は膣の入り口から奥までを思いつきりぜん動させた。

「くうっ……雪乃さんの中、すごく締まってきたよう」

背後から悠人が悲鳴にも似た声を漏らし、雪乃は充足感を覚えながら年下の恋人を振り返った。

自分の中で悠人が気持ちよくなってくれるのは本当に嬉しい。

大好きな悠人が悦んでくれるなら、いくらでも彼の欲望を搾り取ってあげたい。

「だ、出して……！ 私の中、いっぱい悠くんのを出してくださいっ……！！」

夢中で声をうわずらせながら、雪乃は悠人に膣内射精をリクエストした。

「い、いいの、雪乃さん……くっっ」

悠人はすでに限界が近いらしく、何度も眉間をしかめながら強いスラストを雪乃の尻に叩きつけている。

「悠くんのせーし、欲しいです……だから――熱いの、雪乃の中にいっぱいドクドクして

ください……お願い」

「ううっ、それじゃあ——」

悠人はもはや周囲に人がいることすら気にならないのか、急激に腰の動きを激しくした。頃合よく周りの人だかりがいつそう多くなり、ごった返す雑踏の中で悠人と雪乃の不自然な動きはほとんど目立たなくなる。

悠人がここぞとばかりに強烈なスラストを連続して叩き込んできて、雪乃の最深部にまでたくましい衝撃が響き渡った。

「は、んっ……ふと、いつ……あ、あん、奥まで、届い……はあぁっ！」

雪乃もまた、一気に燃え上がった官能の炎に下半身を焼かれながら、遠慮なく甲高い嬌声を上げた。

雪乃たちの荒い息遣いや艶声は轟き渡る太鼓の音にかき消され、二人以外の人間にはまったく聞こえていないようだ。

「あぁっ、すご……締ま、るっ……ゆ、雪乃さ……イキ、そ……はぁ……イ……！」

背後から途切れ途切れに聞こえる声はどんどん切迫した調子になっていく。

やがて最高潮を迎えたところで、悠人が腰を小刻みに律動させた。

雪乃の膣孔を丸く押し広げるように拡張しながら、子宮の入り口を強烈なストロークで突き上げる。



この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

竹内けん

Takenti Ken presents harem series official guide

ハーレムシリーズ

公式ガイドブック

竹内けん特別インタビュー他、
「歴史年表」「人物相関図」
等々あの超人気シリーズの
世界観を網羅した
完全ガイドが登場!!

特別描き下ろし
イラストも多数収録!



Now On Sale!!

A5判/定価990円(税込)



特設サイトはこちらからアクセス!!



<http://ktcom.jp/harem/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル／毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価／690円(税込)



全国書店で
好評
発売中



凄腕退魔士の咲妃を
牝奴隷に堕とす
新たな敵の登場!

呪詛喰らい師2

【小説…蒼井村正／挿絵…或士せねか】

思春期なアダム4

【小説…さかき傘／挿絵…天海雪】



オトミッコ!
僕は男の巫女娘
【小説…大熊狸喜／挿絵…大空樹】

全国書店で
好評
発売中

男の子と女の子——
二つの性の間で揺れ動く
男の娘が巻き起こす学園ラブコメディ!!



少女天使の暴走が
平和な学園生活を破壊する!!
シリーズ急展開のバトル&エッチ!!

既刊LINEUP

全国書店で好評発売中

●仙酔学園戦姫ノブナガリ ①～③

●ピルグリムメイデン ①～③

●不死の吸血鬼がTSのご主人様を募集しているようです

●思春期なアダム ①～③

●呪詛喰らい師【カースイーター】

●女幹部メル様のセカイ征服計画!

●借金お嬢小姐 ①～③

●無敵の姫騎士がPMに目覚めたようです

●宇宙海賊学園ブラックキャット

発行◎株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

最新情報は公式サイトへ! あとみっく文庫

検索

http://ktcom.jp/index2.htm

KTC - KILL TIME COMMUNICATION...

おかげ様で46期!

国内最大級のダウンロードショップ! ゲームのダウンロード販売はここからどうぞ!

ほしいものちょっとつかも...

会社概要 通販ご利用方法 広告掲載案内 お問い合わせ プライバシーポリシー

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

http://ktcom.jp/

コミックアンリアル
コミックアンリアル
アンリアル
検索

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアル**のバックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利! 来かねる場合がございます。お問い合わせください。場合、お手数ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快なBlog**も更新中!

最新情報満載!
最新情報満載!!
ゲーム化!
ゲーム化!!

VALKYRIE



http://www.comic-alkyrie.com/

cranberry



http://www.cran-berry.com/

mille-feuille
ミルフィーユ



http://www.mille-feuille.jp/

**モバイル二次元
ドリーム**



http://www.2d-dream.jp/



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!